

の結社解散と財産の没収（その中には文書、書類の没収も含まれていた）といった二重被害で現存する書籍、雑誌、小冊子、書類は極めて稀である。

筆者はこのことを非常に憂い、より真実なる玄洋社、黒龍會像を浮き彫りにすべく原資料の収集を行ない、『内田良平著作集』等の覆刻出版を期すことよって、悪意と偏見に満ちた玄洋社、黒龍會像を社会科学という仮面を被った学匪と言っても決して過言ではないイデオログ達から解放するものである。このことに依って一般に誤謬される、玄洋社、黒龍會の一掃が少しでも出来得ると信じている。今般、幻の本ともいふべき黒龍會『會報』第一、二集の覆刻刊行は、より黒龍會の実像が判りする好資料だと断ずる。

『内田良平著作集』（皇極社出版部、既刊第一、二、三卷、全十卷予定）等と共にこの『會報』という原資料を世に明らかにしてその公正なる評価を研究家諸氏に質すことは、玄洋社、黒龍會の道統を継承する一道人として又、玄洋社、黒龍會で活躍した人を祖先に持つ一遺族としての使命の一つであると考えている。是非とも原資料を活用した公正なる研究に本書が役立つことを願っている。

（非賣品）

明治三十四年三月十日發行

會

報

第一集

黒龍會

品中高價格を有するもの一つもあらず

市の中央一大廣場あり市場に充つ四圍牆壁を廻らし各隅奇巧なる樓臺を設け皆な官有に屬す
市中及市外に於て毛革製造所製細所豆餅製造所等あり豆餅は家畜の食料として露領烏蘇利地方に輸送
せらる又製粉所あり品質頗る佳其なり亦盛に露領に供給す其他滿州人の食品として非常に需用を有す
る麥麵の製造所及製紙所有り、紙は専ら彩色せる人馬の畫像を作る工場に使用す此の人馬の畫像は彼
等上流者葬式の際必要附屬物にして最後に之を其墓上に燒失するものなり又數箇の煉瓦製造所、窯製
造所火酒製造所及製革所等あり

當寧古塔附近に於ける蠶業及毛革製造は將來有望の事業ならん毛革の取引露人清人にして中々盛なり
電信局ありて琿春を経へ浦沙線に接屬し日本及歐州に連絡す

寧古塔城の西南を距ると遠からずして古昔大都の遺跡を見るを得べし之れ土人の呼んで東方の首都
「トンチヤン」と稱するものなり傳へ曰ふ今より一千年前此地未だ朝鮮の一部なりし時代に於て己に荒
廢したるものなりと一説に因れば滿州王國の創設者「ヌルハツイ、アドラー」の據りしと稱するものは
即ち此の城市なりと又他説には之彼の往昔全盛を極めたる渤海王國の首府なりとも曰ふ（以下次號）

韓國沿海事情

葛 生 修 亮

葛生氏は、明治二十六年十月朝鮮に渡り、釜山に遊ぶこと中、翌年五月歸朝、明治三十二年二月再び渡韓、昔は八道山河
を跋渉し、六月釜山に返りて、朝鮮漁業協會に入り、身を一艇の扁舟に托して、常に東北豆橋江より西南忠清道沿海の形勢及漁
業の調査觀察に従事し、此間一回歸朝、更らに昨三十三年十月歸朝したるの人なり、

緒 言

八道の地たるや我國を隔つる僅に一葦帯水の間にあり飛艇一夜にして通すべく北は西比利亞の廣原に
接して露西亞と隣し西は滿清の境に連りて交通頗る頻繁其他海島の要衝港灣の地位實に東亞の咽喉と
扼するに足るものあり此故に東亞の振興を策するもの先づ朝鮮の興起を云ひ邦家百平の大計を畫する
もの又た朝鮮の扶植を云ふ其我邦に於けるや詢に唇齒輔車の關係ありと云ふべし今の時に當りて一葉
を創め一事を樹て彼れの事業を導き人智を開發するは皆當さに我邦に於て計の得たるものなるべく之
れが形勢を精細詳知して参考の料に供するは最も有要の事たるを信ず予の斯邦にゐるや常に漁者の間
に伍して吾く海島を往來し頗る其形勢に通ずる所あり則ち茲に此間の消息を傳へて参考の資に供する
所あらんとす

第一 地理

位置 韓國は亞細亞大陸の東部滿洲吉林、盛京、兩省及露領「ボレンユット」の境より南方に向つて突出

したる半島にして北緯三十三度十五分乃至四十二度二十五分東經百二十四度三十分乃至百三十度二十五分の間に位し北は白頭山及鴨綠江を限りて支那と境を分ち東北豆満江を扣へ鹿屯を挟んで俄かに露領南島蘇里州に隣し西黃海を隔て、清國盛京、江蘇、山東、直隸諸省に面し南東は近く我邦の山陽九州に通じ東日本海を抱いて適に我邦の山陰北陸諸州と相對す其長さ南北四百六十英里市の廣き處東西百三十里に及ぶと云ふ

●**區別** 全國分ちて平安、黃海、京畿、忠清、全羅、慶尙、江原、咸鏡の八道となし就中慶尙、全羅、忠清、平安、咸鏡の五道は各々之れを南北兩道に分ち内平安、黃海、京畿、忠清を嶺西、江原咸鏡を嶺東、忠清、全羅、慶尙を三南と稱す蓋し嶺西嶺東とは白頭山脈の分嶺によりて區別したるもの三南とは國の南に存在するもの、稱なり又江原道を關東平安道を關西とも云ふ京畿道は國の中央に位して黃海平安二道と相連りて共に西而黃海に臨み忠清、全羅、慶尙二道は南方にあり此六道を背にして國の東海岸に沈めると江原咸鏡二道とす

●**地勢** 北より南に延びて東西に狭く山岳多くして平地少なし其北疆に聳立するものは白頭山にして峻高國中第一に居り此脈走りて南に向ひ其形馬背の如く東岸咸鏡、江原二道に偏延して南海に薄り全羅道に至り其影を没して海中に入り再び顯れて濟州島となり漢翠山其中央に聳ゆ此間幾多の支脈分岐して峯巒峻嶺國中に蟠廻蜿蜒し其地形東南に突起し西南に傾斜せるが故に嶺背咸鏡、江原二道及び慶尙

北道は其水東に向つて流れ慶尙南道及全羅道は南に下り嶺西の地は河流悉く黃海に注ぐ

●**山岳** 咸鏡道の白頭山、慶尙道の島嶺、全羅道濟劬島の漢翠山之れを韓國の三大山と云ふ其他高山峻嶺到る處に些ならず此國の山は岩石より成れるもの多數を占め金銀銅鐵水晶玉石等の賄贖に富む人民殖林の法を知らざるを以て概して禿禿の山形多く樹木の繁茂するもの稀なり唯北方白頭山及び鴨綠江沿岸附近に至りては樹木甚だ繁茂して頗る良材を出すと云ふ噴火山は之れ無しと雖とも處々の山中温泉の湧山するものあるより之れを見れば國中に火山脈の縱横するものあるを知るべし濟劬州は古來有名の噴火山なり

●**河川** 此國長江大河に乏しからずと雖とも概して西及び南方に多く其主なるものは平安道の鴨綠江及大同江、京畿道の漢江、慶尙道の洛東江、咸鏡道の豆満江にして之れを朝鮮五大江と稱し更らに平安道の清用江忠清道の錦江、全羅道の榮山江及嶺江の四を加へて九大江と云ふ其他掛舟を通じ瀧漑に利する河川多し

●**島嶼** 東北面に少なく西南面に多し殊に三南に在りては大小幾多の島嶼其海中に出沒陰見するの狀既に暗夜の曇影も宵ならざるの觀あり就中其大なるものは濟州島、巨濟島、南海島、珍島江華島にして之れを韓國五大島とす其他知名の島嶼些なからず

●**氣候** 全國繞らずに海を以てし其沿岸寒潮の流域に當るが故に氣候の變動殊に甚だし冬期北方の露地

成鏡道に至れば十月初旬既に降雪を備ふし六月に至りて漸く四山の雪を解く江原、京畿、黃海、平安諸道は冬期中長江大河を氷結して氷上人馬の往來に委するに至り慶尙、全羅、忠清三道は國中温暖の地と稱すれども極寒の際は猶ほ密柑、鵝卵、麥酒等の凍凝することあり之れに反して夏季は甚だ酷熱を逞ふし仁川に於て寒暖計華氏九十六度元山に於て九十五六度に昇騰するを常とし釜山に至りては稍々之より降る即ち本邦九州遂に比すべし寒暖共に酷烈なるものと斯の如しと雖とも俗に三塞四暖と稱して三日寒く四日暖くして氣候を順環調和するが故に稍々人體に耐ゆるを得べし又々春秋にありては氣候温和に野花時を逐ふて開くあと本邦と異ならずと雖とも其季節甚だ短し

人口 昨三十三年度同國政府の調査によれば戸數一百三十九萬七千六百三十、人口五百六十萬八千一百五十一人内男三百十萬二千五百五十八人女二百五十萬五千五百一人にして其統計比較上男女の權衡を失し又々年々減少を來すの傾向あり察するに是れ地方官等の私利を貪るが爲の虚偽の報告をなし又々地方により戶籍調査法を解せずして女子、小兒、奴隸等を加算せざるもの存に依るものにして其全般の概觀上人口一十萬人に下らざるべきを信ぜざるなり而して其内慶尙、全羅、京畿、忠清の四道最も稠密し之れに次ぐを平安、黃海二道とす江原成鏡二道に至りては甚だ稀少に殊に成鏡道關北の地に至りては十余里方を管轄する一郡下の戸數一千内外に過ぎざるものあり

風俗 韓人は一般に傾情にして絶へて勤勉蓄財の心なく徒に目前の缺を補ふを以て足れりとずるの風

あり又々事に當りて敢爲の勇なく失敗に逢ふて沮喪し易く凡て舊法株守に甘んせり當今文明日進の世獨り桃源侗裏古仙人の態を學んで時勢に伴ふ能はざるもの理ありと云ふべし

此國の種族に両班常漢及奴隸の區別あり兩班とは貴族を指し常漢とは平民と云ふ義なり兩班は權威殊に大に平民を遇すること抑壓殘忍を極め一介を走せて農商より金穀を徵集し之れを拒むときは立ろに杖撻を加ふるあとある如き一般の情狀なり兩班の通行には從者前後を擁して簪跣し人民皆な路傍に平伏敬禮するものと我邦維新以前大名の其領内を通行する際に於けるが如し

生計は兩班は官祿を食み中人以下は商工等に從事す農耕は男女共に之れを爲せども女子は専ら勞動に従事し勤勉男子に勝る

女子は國風他の男子に見ふるあとを避け其室は女房と稱して他人の出入を禁す殊に中人以上の家に在りて甚だ嚴なり中人以上の婦女他出の際には必らず而帛を被り敢て眉目を露はさず或は輿に乗じ布帛を垂圍する等の事をなす是れ此國人媼風殊に盛んなるが故に男子の制裁する所となりて茲に至れるなりと夫れ或は然らん又婦女の殊に本邦人に接するあとを忌み道途邂逅するあとあるときは遠く逃避して其姿を匿し、然らざるも路傍に避けて通過を待つを常とす

又々男子の脱帽、素足、其他體部の皮膚を露はすことを卑しむ裸體、袒裼、露脚等を忌むこと殊に甚だし本邦人に對しては一般に惡感情を懷くもの少なし唯、從來屢々爭鬪を惹起したるあとある原因と

見るに概ね彼我の事情に通せず又た相互に輕侮賤視の念を包藏せしものあるによりしと雖も現今に至りては韓人稍々我が邦の事情を解して接遇真好に赴き本邦人にして信實之れに接すれば韓人到る處に親睦の情を盡すに至れり然れども又た地方により頑迷の徒ならにあらず

産物 此邦の産物は人工を加へたるもの殆んど無くして概ね天然若くは農産海産のものみに止まる陸産中重要なるものは米、大豆、人参、野獸皮、砂金、銅、鐵、水昌、玉石等にして其他猶ほ種々あれども列擧するに足らず海産は饒多なり然れども韓人の漁業は甚だ振はずして概ね本邦人の手に委するの狀態なり本邦人年々の收穫百七八十萬圓に達す

海勢 朝鮮の地勢は八道共に海に沿ひ其海岸線の最も長きは咸鏡道之れに次ぐは江原、慶尙、全羅、平安の四道にして忠清、京畿、黃海三道は稍々短し海岸の全長一千七百四十英里に達し内本邦漁人の通漁區域に屬する四道は長さ殆んど一千海里に及び其海中魚類の棲息回游甚だ饒多なり殊に慶尙、全羅、忠清三道は大小幾多の島嶼其海中に甚布臚列して最も漁業に適し又た船舶碇繫に便する其港灣に乏しからず茲に沿海の事情を擧ぐるに當り全羅、慶尙、江原、咸鏡、四道に厚くして他道に薄き所以のものは予が實地調査の時利害關係の重大なる所を丁重にせるが爲なり

潮流 凡る潮水の流動は大氣の流動に原因して之れを示すものにして其流域の分布により大氣の寒暖に影響を來し又た海中棲息魚族と異にするものにして其關係する感誠に偶然に附すべきものにあらざ

るなり潮流は之れを分ちて寒潮と暖潮との二となし其流域共に夏冬季節の推移によりて幅員を伸縮弛張すと雖も其本流は一定變ずるまとなし暖流は一名之れを黒潮と稱し南赤道海流を源とし北に向つて注ぎ我國にありては其本流臺灣の東より沖繩島に沿ひ流れて太平洋に向ひ九州四國の南海を経て伊豆沿海より奥州金華山沖に進む又た一派九州の西部より岐平戸五島等の西海を経て朝鮮海峽より山陰道に沿ふて日本海の東部を流れ其極阿哥科海に歸するもの之れを韓海に影響する暖潮の一派とす寒流は源を北方の寒帯より發し其流域數派ありと雖も朝鮮沿海に流注する一派は之れを來滿派と稱し阿哥科海の北西より來り黒龍江の前而を過ぎ日本海の西半部を朝鮮大陸に沿ふて慶尙全羅の海中に流れ全羅道の南西角より折れて西向朝鮮と支那との間に位する黃海に至るものなり而して韓海に於ける兩流の關係は春季四月頃より漸く暖流の幅員を増し盛夏に其勢力を極め全羅慶尙より漸次江原咸鏡道沿海に至りて其寒暖兩流の交差を示す全羅尙慶海中に於て夏季 鯖、鮫等の暖流魚を産するは之れが爲めなり更に十一月頃に至れば暖流漸く減じて寒流再び其幅員を膨脹し全羅慶尙の沿海は恰も其交差の點に當る冬季慶尙道沿海鱒、鰯等の寒流魚を産するを以て之れを知るべし斯の如く韓海に於ける海流は常に寒流を以て其大部を占むるが故に氣候の變動常に甚だしく殊に冬季の酷寒は之れを本邦に於ける同緯度の地方と同日に語るべからざるものあるは是れ一に潮流の司配する所に依るものなり

本道は國の東南端に在り北は江原道に隣し西は一帶の山脈を負ふて忠清全羅と界し東は日本海に枕みて其海角近く我對馬と相對し即ち朝鮮海峽を成す海岸の形勢釜山以北は其港灣に乏しく且つ氣候寒冷なりと雖とも其西南は屈曲甚だ多く幾多の島嶼其前に散點して良好の港灣に富み行舟甚だ安全なるのみならず氣候稍温暖にして四時漁業に適し殊に釜山の要港を控へて我國と最も相近きが故に本邦より各道に出漁の漁船往來共に概ね此處を通過し且つ魚類の販賣に便なるを以て漁舟常に其帆影を絶たず木道の管區は德敷六十一郡に跨り其内海岸に沿ふもの釜山以北は東萊、機張、蔚山、慶州、長鬐、迎口、興海、盈徳、寧海とし其以南に在るもの金海、熊川、昌原、咸安、鎭海、固城、晋州、泗川、昆陽、河東にして巨濟及南海二郡は共に其海東にあり漁業の根據に適する港灣要地釜山を譽ぐれば左の如し

(一)釜山港(釜山)韓國現今の開港場中我國と最舊の歴史を有する貿易場にして北緯三十五度六分東經百二十九度三分に位し我對馬と相距ること十八里長州馬關より百二十海里の北西にあり初め宗氏の斯國と交通の便を開くや熊川郡饒浦に日本館を置き天文十二年に至り今の釜山鎮の西隣舊鎭洞に移し、が寛文十二年更に現時の處に轉し明治九年兩國政府修好條規を訂結して茲に本邦人專管居留地となり次て各國の貿易開港場となりたれども其實地各國人は極めて僅少にして商權の如きは専ら本邦人の獨占到歸せり

地は東萊府に屬し本邦人の居留地は港内の西奥に在り其西に在るは富民洞(本邦人一ツ家と呼ぶ)にして北に在るは草梁里(坂の下)及舊鎭洞、釜山鎮南に在るを絶影島とす絶影島は本邦人之れを牧の島と呼び周圍約八里其形南北に短く東西に長く大陸と相懷抱して釜山港を構成し其東端大陸斗出の一角と相對するもの之れを東而の港門となす門の北側五六の怪巖海中に突出するものあり五六島と云ふ以て入港の標となすべく大艘巨舶の出入を妨げず別に西南の一隅本邦人居留地との間縫かに海峽を形くるあり其間水深三尋若くは四尋吃水淺窄の汽船を通ずるに足る冬期に至れば海内處々に韓人の魚帳(イサト)を架するものあり其業甚だ熾にして狀蜘蛛の巢の如し潮汐は朔望大潮舛舛七尺なり

本邦居留地は幅員十余萬坪北に鋒峯山を負ひ南絶影島に對す中央一丘あり龍頭山と云ふ上に翠平、辨天の二社を祭る之れを龍頭山神社と稱す龍頭の一脈岐れて東岸に突起するもの之れを龍尾山とす上に臙肥州の祠あり語り傳ふ此祠絶影島に在りて韓人の李舜臣を祭るものと相對持して居留の邦人を鎮護するものなりと此二丘は共に老松蒼蔚として全山を蔽ひ諸禿の四山中相然獨り美觀を保ちて居留地の異采を添ふ二丘の周圍を市街とす之れを十二區に分ち北に在るを北濱町東に在るを木町、常盤町、翠平町とし南に在るは辨天町、入江町、幸町、南濱町にして西に在るを西町、山下町、桶屋町、鍛屋町とす全街家屋連楯殆んど立錐の地なく漸次居留地の狹隘を免ふるに至れり家屋の構造は皆な日本風の瓦葺にして市街の秩序未だ闕然すべきの点なきにわらずと雖も制度文物の稍々整へるもの盡し之れを韓國

明治三十四年三月六日印刷
明治三十四年三月十日發行

編輯兼發行人

東京市芝區西久保巴町廿八番地

葛 生 修 亮

印刷人

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

大 野 喜 六

印刷所

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

成 功 堂

東京市芝區西久保巴町廿八番地

發行所

黑龍會本部

出版廣告

最新滿州圖

(交通解説附)

一部代價 會員(特別割引買價)三十錢
定價 五十錢

露國東清鐵道會社最近の製作に係り、更らに本會員某々の、實地踏査まで修正加除したるもの、其範圍は黑龍江以南支那滿州一帶を包轄し、之れに附するに各市邑都府間の精確なる里程表等を以てせり、一たび之れを符ふれば以て國內に於ける、都市、鐵道、河海、林野、鑛山等細大之れを審かにするを得べく、東亞の大勢を知らんと欲するに於て必須の珍品なり
右は今般本會に於て印刷に附し、本月十日出來の筈にて、會の内外を問はず普ねく之れを天下同好の士に頒布致すべく候間此段廣告仕候也

三 月

黑龍會出版部

又本會員にして本圖御所望の方は入會金及會費御差出しの節其代價を添へて御申込あるべし

黑龍會調查部編輯

一 黑龍沿道州の概勢

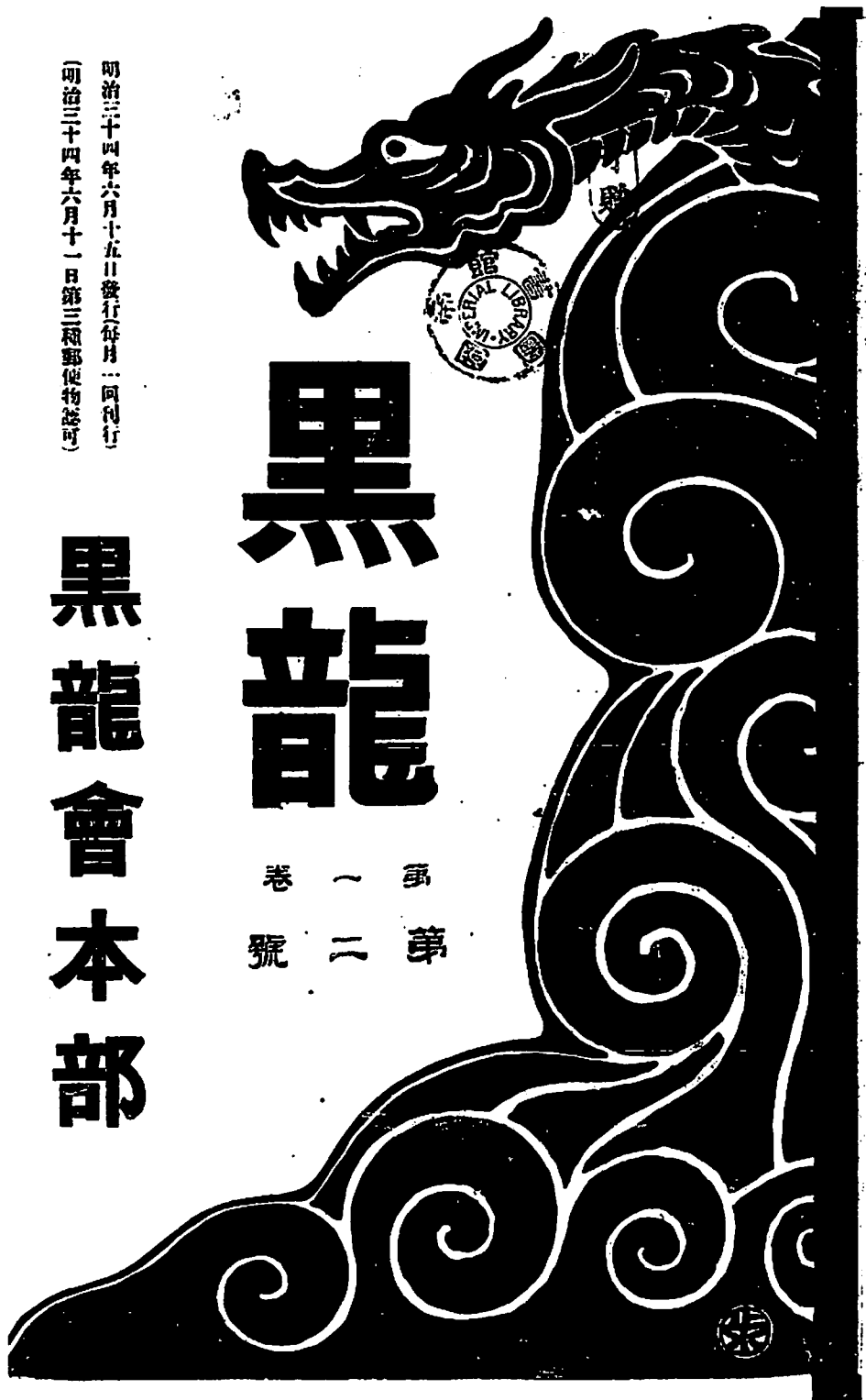
近刊

明治三十四年六月十五日發行每月一回刊行
(明治三十四年六月十一日第三種郵便物認可)

黑龍會本部

黑龍

第一卷
第二號



朱

開大とは何ぞや曰く大日本の大を開くなり。天道の大を啓くなり。開き且つ啓いて以て世界の大地に應じ。以て精神力の大きに實にする所以是れなり。詳くは之を十數回掲載の本論に徴せ

(つづく)

審勢 邑之不取 邑之千五

韓國沿海事情(兼前)

葛生修亮

江原道

本道は本と畿類の地にして、國の東面にあり南、慶尙道に鄰し北、咸鏡道に連り北西は僅かに黃海道の東隅と境を接し南、京畿道及忠清道と土境を交へ、東面一帯は海に濱して悉かに我邦の山陰北陸諸州と相對す、地勢南北に長く東西に狭く、長白山脈の南下せるもの道の西方に蟠繞して金剛、雪岳、五臺、頭陀、太白等の諸名山を形成し、狀恰も臥雲の天際に蟠るに勢儼たり、山脈の西は之れを嶺西と稱し、重山複水の間風氣高寒地瘠せ民朴に古來高士隱棲の境と傳へらる、此處は即ち古昔の新羅の故都、日本史家の唱へて新羅羅骨の占領地なりしと爲し、又た現今韓廷、咸時、の避禍場に備ふる春川府のある所にして、往時は樹木繁茂し

木材及山峽の間に野生する人參の好産地なりしと雖も近歲に至りては民口稠密村蕃相接し、山野漸く開墾せられて山に寸木なく且つ人參の出るもの稀れなるに至れりと云ふ、嶺東の地は、局促東海の濱に迫りて、地勢甚だ峻險に、其最も廣しと稱せらる、江陵郡下も、尙は數里に亘るの平地を見る能はず、且つ土壤礫磽、農耕に適せざるが故に、殖産の見るべきものなく、米穀の如きは特に其供給を三南の地より仰がざるを得ず、海岸の形勢は、南北延長九十里に亘り、全岸殆んど一度線と以て劃せられ、平砂相連りて、地與嶺の好産場に當み、船を産すること殊に莫大なり、然れども港灣の屈曲及島嶼の出没するもの極めて乏しく、船舶の航行に不便を感ずる事甚なからず、殊に冬期にありては、北風連日胡砂を吹き、海濤荒れて漁舟の航海頗る困難なりと云ふ、氣候は、寒潮の流域に當れるが故に、冬期は寒威酷烈にして十二月頃より二月に至る間、江陵、襄陽沿岸に接近せる半凍半融の池沼を凍らし、水上人馬の往來に便するに至り

盛夏の候は、寒暖計九十度以上に昇騰するを常とし、七八兩月の間は降雨最も多く余が過冠したる明治三十二年度の如きは十八日、即十二日の降雨に遺ひたることあり、之れを土民に聞くと同季間は毎平常に斯の如しと、夏季雨量の多きこと以て知るべし、然れども春、秋、雨季は降雨至つて少なく、唯冬期降雪多きことは韓國中第一と稱せらる、所なり、

海産は鱈、鱒、鱒、鯛、鮑、海胆等にして其棲息回遊候多なり、然れども行舟不便の地なるが故に、潜水艇船を除くの外、未だ本邦漁船の出漁多きに至らず、本道は、觀察府を春川府に置き管區二十六郡ありて、其内嶺西に位するものを春川、原州、淮陽、鉄原、伊川、寧越、雄基、平昌、金城、平康、金化、狼川、洪川、揚口、麟蹄、橫城、安峽の十七郡とし、嶺東則ち海濱に位するを江陵、襄陽、三陟、平海、通川、高城、杆城、蔚珍、歙谷の九郡とす、今其商港浦口及び漁業に適する港灣要地を擧ぐれば左の如し、鬱陵島(春川府直轄) 平海郡、越世浦の南嶺北に當り、四十余里の海中にある孤島にして、別名之れを武陵又た羽陵とも書す、則ち古の干山國にして本邦人は極島と呼ぶ、世人の本島は大小六箇の島嶼、若くは竹島、松島、二島、

り成れりと爲し、或は地圖に之れを記入しあるは往々見る所なれども、是れ等は何れも誤りなるが如し、本島は、素と金剛山脈の一支流れて東海に入り、峙立して其頭を顯はしたるものにして、面積約七十五方哩、中央に一の山岳登るものあり、其高さ四千呎、峻巖突兀四周に之れを擁して、遠く望めば青嶺の浮出したるに勢儼たり、又た船舶を碇泊するの良港無く、商船渡船の碇泊困難にして、風濤少しく荒るゝときは、島の北面に位する海濱の平地に船を曳き揚ぐるを常とすと云ふ、

全島平地殆んど之れ無しと雖、此島の地質は古來落葉枯草の堆積腐化したるものより成れる、所謂黒土の一種にして土地肥沃殆んど肥料を要せず、只稀れに盛灰等を以て耕種することあるのみ、農産の主なるものは大豆、大麥、小麥等にして、殊に大豆は粒大に質宜しく、直接に本邦に輸出せらる、産額年々四五百石に及ぶと云ふ、林産には樺、桐、松、白楡等あり、就中樺は徑六尺位の大材を出し、樺は本邦にて松島桐と稱し唐木細工中の珍重する所、白楡は以て香料に供すべく、何れも巨大のものを産し、往時は此の種の樹木全島に覆茂して殆んど無盡蔵の觀ありしも、近歲に至りて本邦人の燬んに之れを輸出したりし爲め、其遺伐の結果

韓國沿海事情

國年減少に赴けり、此他山葡萄の類亦た些ならず、海産は魚類及び鮫、海鼠の類に乏しからざれども、近海の水何れも百尋乃至百六十尋の深きに失するが故に本邦船隻の春季往來するものあるの外、魚産は未だ盛んならず、唯沿岸の淺處に採取する石花菜は種類良好其産地に大なり、又た秋季山葡萄の類非常に多く、島民は之れを採殺し、肉は乾燥貯藏して年中の副食物となし、脂肪は溶解して燈油に供すと云ふ、想ふに世人の稱して信天翁の棲息地となすは此島の訛傳ならん、其天産の豊饒なること蓋し韓國中他に比擬なしと云ふべし。

島中一泉あり清水多量に湧出す、聞く此水は少しく酸味を帯び島民之れを藥泉と稱し、疾病の際、用て藥餌に代へ効驗見るべきものありと、察するに之れ本邦神戶邊に産する本野水、紀州の金山水等と同種なる炭酸泉にあらざるなきか

本島は往時所謂倭寇の一時據て以て根據地としたことあり其他我邦とは殊に密接の關係を有し、貝原益軒の如きは斷じて之れを我邦の所屬なりと論じたることありたれども、久しく其所屬を摸稜の裏に經過したりしが、明治十六年の頃、本邦人某工人を被して伐木に従事したるに、韓廷抗

韓國領事官

十三

去の命令ありてより減少して今は百四五十人の居住に過ぎずと云ふ、是れ等の本邦人は概ね島取降下より直接渡航したるものにして樹木の伐採及び大豆、石花菜等の産物出を以て營業とし純然たる日本村を成し、中には酒、烟草、紙、油其他日用の雜貨店あり、二三の料理店を開き酌婦の來り住するもの亦た之れありと云ふ

慶陵島より東南の方約三十里、我が陸彼國を西北に距る殆んど同里數の海中に於て、無人の、一島あり、晴天の際山峯の高處より之れを望むを得べし、韓人及本邦漁人は之れをヤンゴンと呼び、長さ殆んど十餘町、沿岸屈曲極めて多く、漁船を泊し風浪を避くるに宜し、然れども薪及飲料水を得るは甚だ困難にして、地上數尺の間は之れを穿てども容易に水を得ずと云ふ、此島には海馬非常に棲息し、近海には鮫、海鼠、石花菜等に富み、數年以前山口縣潜水器船の望を屬して出漁したるものありしが、潜水の際、無敵の海馬の爲めに妨げられたると、飲料水の缺乏との爲めに充分營業することを得ずして返りたりと云ふ、察するに當時の季節は恰も五六月にして、海馬の産期に當りしを以て、殊に其妨害を受けたるものならんか、又た附近に鱈漁の好網代あり、數年以來五六月の候に至れば大分鱈網の出漁す

韓國領事官

十三

阻する所あり、我邦之れに譲りて其所屬始りて一定するに至れり、明治二十三年に至りて、韓廷金玉均を以て東南諸島開拓使兼捕鯨使に任じ、白春培を以て從事官となし、該島の開拓事務を辨理せしめたりしが、翌年京城の變ありて果さず、其後島民徐敬秀を以て越後萬戶に差定し、住民の繁殖を計り、外國人の樹木伐採を防禦せしめたりしも、本邦人は依然として前狀を維持し、唯貨物賣却の時、口實自分二を官に納れ、木材には船一隻に百兩(我二十圓)を納れ以て公積の密貿易を爲せり、次て明治三十一年の頃、該島の伐木植林の權利露人の手に委することとなり、露人は直ちに韓廷に照會して外國人(即ち日本人)の本島の木材を伐採し、及び島内に居住することを追り、外部は更らに之れを我が公使に照會し、我が公使は一時本島に在りたる本邦人に退去を命じたることありしも、其後邦人をして急に同島を撤退せしむるは事愷の能はざるものあるに依り之れを韓廷に復陳したりと云ふ

本島は、往時は住民極めて稀少なりしも、近世に至りて商賈及び農夫漁夫等の穡り住する者相隨ぎ、本邦人亦た此間に雜居し、韓人の戸數約四五百に達し、本邦人は兩三年前迄は其數殆んど三百人に達したりしが、一時本邦政府より退るものあり、昨年春季同島より歸航したる漁夫に就て之れを聞くに、出漁未だ二三回に過ぎざるが故に、充分の好果を得たりと云ふべからずと雖も、毎季相應の漁獲あり、從來の經驗上其朝代の狀態及び種類の棲息多きとより觀察するに、必ずや良好の漁場たるを疑はずと、蓋し營業者の爲めには尙ほ充分採撿の價値あるべきを信するなり(其要領は會報第一集に載せたり参照せよ)

厚利浦(平海郡)本浦は慶尙道に隣する一小港にして丑山浦の北四里にあり、灣口東南に面し其形新月狀を成し、西北環らすに丘陵を以てし西、北の風位を避くるに適し、本邦漁船の寄港するもの甚なからず、人家七十餘戶其海岸に村落し、半漁半農を以て生計を營み、人情穩かなり、又其海岸に井泉あり、清冷にして瀉出健多に、船期飲料水の好供給場なり、近海鮫、鯛、鱈、鱈、蟹、河豚等を産し、韓人の春秋兩季の鮫漁及春季の鱈、河豚漁最も熾んなり

笑城(平海郡)厚利浦の北三里にある人家百餘戶の一村密昔時萬戶の治たりし所にして瓦樓廢衝の遺存するものあり以て指點の標となすべし、其前岸には、一帶二十餘町に亘れる砂嶺を控へ、地良網の好漁場なり、此處は春季本邦潜水器船の出漁し納屋を構ふる所にして納屋場は洞の北方に

目 要 号 前

(主眼) 廿世紀の威力活用法 記 者
 瓜州州の事変概観 藤 文夫
 露國人情風俗雜觀 内田 甲
 旅題口 遠山景直
 (坊) 薩哈連島最近の形勢 篠崎昇之助
 韓國沿海事情 葛生修亮
 支那本部に於ける露人の勢力 黄河古道人
 (情) 韓國に於ける外人の事案 志村南欽
 プラゴウエ通信 ヒラミット
 (逸) 魯公征韓勅辭 魏軍大將陣中日記 王 星
 (傳) 韓山虎嘯録 吉州牛
 (編) 西嶺探險の無上策 ○ウツラ山中に熊
 の糞工あり ○喇嘛寺の日本古器 ○愛
 古に於ける倭氏の紋印 ○馬賊の旅行
 (影) 保險會社 ○新羅古都の三大遺物

料 告 廣	定 價	
	一 冊	一 冊 (半々分)
一頁	十 錢	九 錢
半頁	六 錢	
一頁	二十 錢	

明治三十四年六月十三日印刷
 明治三十四年六月十五日發行

東京市芝罘四久保巴町三十四番地
 發行所 龍會
 東京市芝罘三河町十四番地
 印刷所 牛田口橋之助
 東京市芝罘三河町十四番地
 印刷所 龍會印刷所
 東京市芝罘四久保巴町二十八番地

發行所 龍會
 東京市芝罘三河町十四番地
 印刷所 龍會印刷所
 東京市芝罘四久保巴町二十八番地